道産材を使った木製品生産の流れについて

林産試験場 利用部 資源・システムグループ 石川佳生，渡辺誠二，古俣寛隆
バイオマスグループ　西宮耕栄，折橋　健

研究の背景･目的

道産材の利用拡大に向けた試験研究を推進するため，道内の木材･木製品等の流通量と出荷額，これらに占める道産材の割合等を明らかにし，道産材の利用拡大の可能性のある用途を把握しました。

研究の内容･成果

道産木材･木製品の流通実態について，製品別の原木利用量や製品出荷量，出荷額，移輸出入量等を既存の統計資料と聞き取り調査から把握し，木材利用に占める道産材の割合（図1,2）と，“道産木材･木製品の流れ”としてまとめました（図3）。

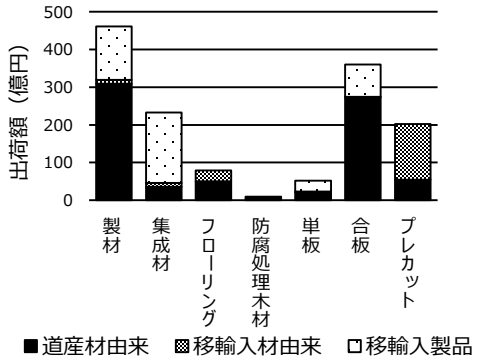

図1　道内木製品の出荷額

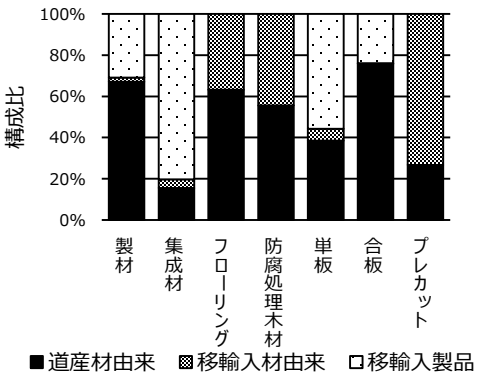

図2　道内木製品の出荷額の構成比

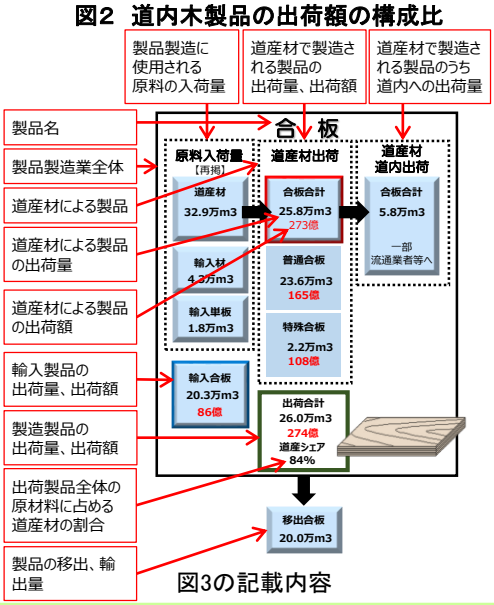

図3の記載内容

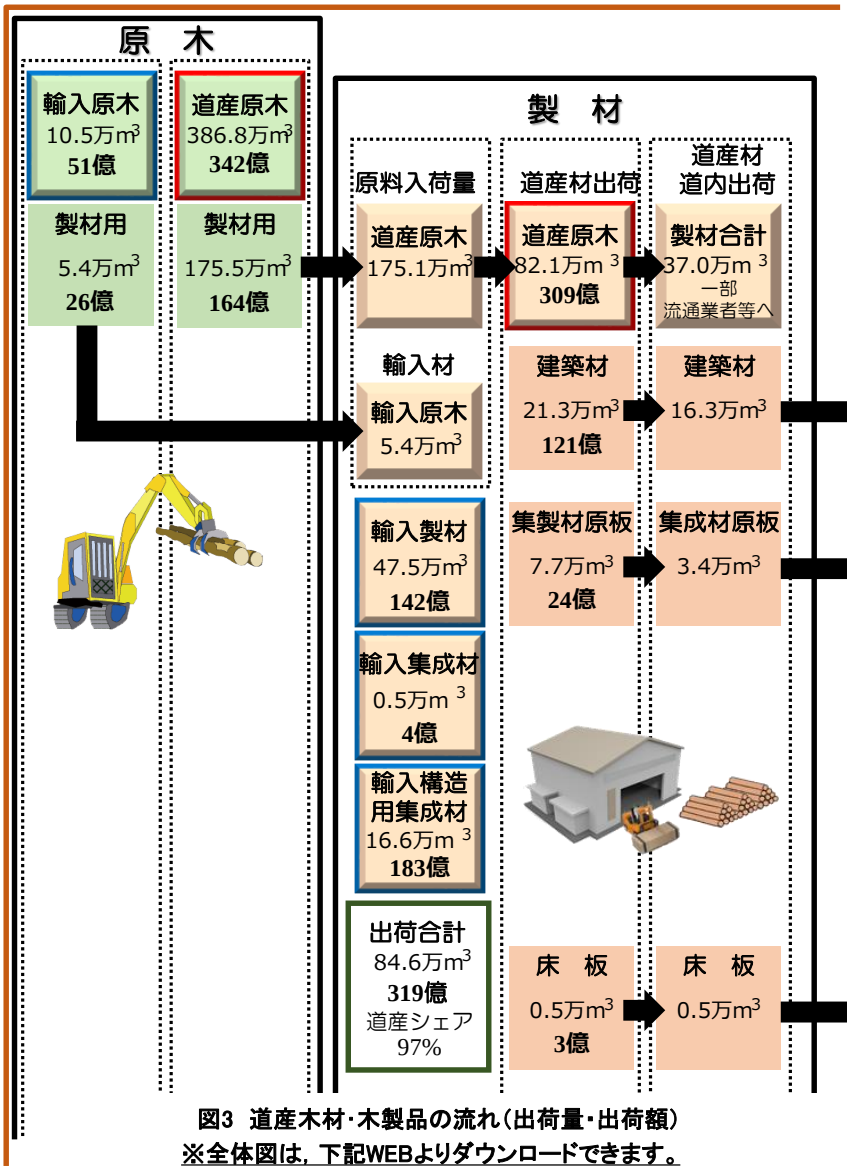

図3　道産木材･木製品の流れ（出荷量･出荷額）

※全体図は，下記WEBよりダウンロードできます。

http://www.hro.or.jp/list/forest/research/fpri/dayori/index.htm

今後の展開

製品別の産業規模や道産材シェアと、これらの“道産木材･木製品の流れ”については、森林研究本部内と関係行政間で共有し、研究の方向性や展開策の検討、行政施策の推進を図る際の根拠としての活用を図ります。